引籠之、而猶和順君迷暗夜、凌深雨到君之所、亦出石橋戰場給之時、獨殘留伊豆山、不知君存亡、日夜消魂、論其愁者、如今靜之心、忘豫州多年之好、不戀慕者、非貞女之姿、寄形外之風情、謝動中之露膽、尤可謂幽玄、枉可賞翫給云云、于時休御憤云云、小時押出於御衣卯花重於簾外、被纏頭之云云、五月十四日辛卯、左衞門尉祐經、梶原三郎景茂、千葉平次常秀、八田太郎朝重、藤判官代邦通等、面々相具下若等、向靜旅宿、抗酒催宴、郢曲盡妙、靜母磯禪師又施藝云云、景茂傾數盃、極一醉、此間通艶言於靜、靜頗落涙云、豫州者鎌倉殿御連枝、吾者彼妾也、爲御家人身、爭存普通男女哉、豫州不牢籠者、對面于和主、猶不可有事也、況於今儀哉云云、

〔吾妻鏡十三〕建久四年五月廿八日癸巳、祐經、王藤內等、所令交會之遊女、手越少將、黃瀨川龜鶴等、則喚此由、祐成兄弟討父敵之由、發高聲、　六月一日丙申、曾我十郎祐成妻大磯遊女、號虎雖被召出之、如口狀者、無其咎之間、被放遣畢、

〔承久軍物語一〕つのくに長江倉橋といふ兩庄は、一院○後鳥羽の御ちやうあい、かめぎくといふ白拍子が、ちぎやうなるを、地とうこれをこつしよしけるによつて、かめぎくこれをいきどほり、院へそうしなげきけり、

〔新古今和歌集十羈旅〕天王寺へまいり侍りけるに、にはかに雨ふりければ、江口にやどをかりける

西行法師

に、かし侍らざりければ、よみ侍ける、

世中をいとふまでこそかたからめかりのやどりををしむ君かな

返し

遊女妙

世をいとふ人としきけばかりの宿に心とむなと思ふばかりぞ

〔玉葉和歌集八旅〕爲兼、佐渡國へまかり侍し時、越後の國てらどまりと申所にて申をくり侍し、

遊女初君